

会議名	令和3年度 第1回 大和市青少年問題協議会
開催場所	書面開催
回答書を提出した委員	柿本委員、河端委員、前田委員、鴛田委員、箱崎委員、溝口委員、竹中委員、丸田委員、黒田委員、森委員、大山委員、細井委員、平澤委員、小川委員、森園委員、石井委員、岩崎委員、柴高委員 以上18名
幹事	樋田こども部長、前嶋教育部長、樋田健康福祉部長、高井指導室長、山崎大和警察署生活安全第一課少年係長 以上5名
事務局	こども・青少年課長、青少年相談室長、こども・青少年活動推進係1名、こども・青少年育成係3名 以上6名
担当課	こども部 こども・青少年課 こども・青少年育成係 TEL046-260-5224
傍聴者	-名（書面開催のため傍聴なし）
公開の状況	公開
会議次第	議題 (1) 青少年問題に関する現状報告について (2) 令和3年度の主な青少年育成事業について (3) 第49回大和市青少年健全育成大会について (4) 神奈川県青少年育成活動推進者表彰候補者について
内容	<p>(1) 青少年問題に関する現状報告について（資料1-1、資料1-2）</p> <p>■<u>青少年相談及び街頭補導活動状況について</u>《青少年相談室》（資料1-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年相談においては、新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校の休業期間があったため、相談件数が減少している。 ・相談内容については、小学校では「性格行動上の問題」、中学校では「不登校」の相談がそれぞれ最も多くなっている。 ・街頭補導においても、補導件数の減少が見られる。「暴走行為等交通違反」が補導全体の89.6%（138件）となっている。一方で「遊技場出入」は2年連続0件となっている。 <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに課題を抱える子の保護者は、育てにくさに悩んでいる方もいる。保護者へのカウンセリングや寄り添い型の支援も必要だと思う。 ・街頭補導活動により、青少年の非行が未然に防止できている。 ・夜間パトロールは大変だと思うが、よろしく願いしたい。 ・学校と共有できる情報は、学校に情報提供して欲しい。 ・コロナ禍により地域の行事が中止になり、子どもが公園等で遊ぶ姿が減っている。地域は、小さいころからの居場所であり、学校外での成長や見守りの場である。 ・相談件数の減少は、おうち時間の増加が影響していればうれしい。 ・コロナ禍における外出自粛やテレワーク等で日常生活が変わり、子どもたちにストレスがかかっていないか心配である。 <p><委員から寄せられた質問と担当課回答①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相変わらず不登校の相談が多い。内容はどうか。 <p>→<u>青少年相談室回答</u></p>

- ・不登校相談の具体的な相談内容については、『不登校である我が子にどのように接すればよいだろうか。』、『学校に行けない原因はどこにあるのだろうか。』、『今のままで良いのだろうか。このまま引きこもりになるのではないか。』、『進路はどうしようか。』、といった、我が子の現在の状況と将来の不安、子どもの対応方法による内容のものが多い。

<委員から寄せられた質問と担当課回答②>

- ・相談内容の「性格・行動上の問題」「学校生活」について、事例や理由等を具体的に知りたい。

→青少年相談室回答

- ・「性格・行動上の問題」の相談の具体的な事例は、子どもの人格の発達上の問題や反抗、落ち着きがない、内気、暴力、生活習慣の著しい逸脱等や発達障害等の診断は受けていないものの、コミュニケーションの苦手さや発達の課題をお持ちのお子さんについての相談となっている。

また、「学校生活」の相談の具体的な事例は、学校での友だちとの関わり方、勉強について、授業について、学習習慣を身に着けるには、といったお子さんについての相談となっている。

どちらの相談についても、児童生徒・保護者等が当事者だけでは解決できないと判断して、相談室に相談をしていくことが多い。

青少年相談室では、児童生徒の抱える悩み、不安等の改善、解決をしていくために、児童生徒のカウンセリングや保護者への助言等、丁寧な対応を心掛けている。

<委員から寄せられた質問と担当課回答③>

- ・学校・職業別のグラフで、小学生の割合が高い。どのような相談内容が多いのか。

→青少年相談室回答

- ・小学校の相談内容で多いものは、性格・行動上の問題、不登校、発達障害などの相談内容となっている。

<委員から寄せられた質問と担当課回答④>

- ・自転車のマナーについて、意識啓発を図る必要があるのではないか。

→青少年相談室回答

- ・数年前より、青少年街頭補導員及び青少年相談員の街頭補導活動における声掛け指導事案は、禁煙・飲酒等の非行少年等の対象が激減しており、毎年20件前後の補導内容も9割以上が自転車の交通違反が占めている。

自転車の交通違反は具体的に

- ア) 2人乗り
- イ) 夜間における無灯火走行
- ウ) 携帯電話を操作しながらの走行
- エ) 両耳にイヤホンをしての走行

等がありますが、特に高校生の携帯電話を操作しながらの走行違反が増加していることから、今後、指導・啓発活動のさらなる強化を図りたい。

■刑法犯認知状況及び少年非行の概要等について《大和警察署》（資料１－２）

- ・ 刑法犯認知状況は前年より微増している。「窃盗犯」が刑法犯全体の 78.3%を占めている。
- ・ 少年非行の検挙状況については前年より 7 人減少し、10 人となっている。「傷害」の粗暴犯が 5 人で最も多い。
- ・ 大和警察署管内の少年非行の特徴や傾向として、刑法犯検挙被疑者の約 8.1%が少年であり、窃盗犯検挙被疑者の約 6.1%が少年である。
- ・ 補導状況については 187 人で前年より 13 人多く、深夜徘徊が一番多い（66 人）ほか、迷惑行為（48 人）が大幅に増加している。
- ・ 少年非行の検挙状況と補導状況は年々減少傾向にある。

<主な意見>

- ・ 深夜徘徊が多いが、子どもによっては、ネグレクトや虐待により自宅に安心できる居場所がない状況もある。学校等を含めた連携をお願いしたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染予防により、外出が少なくなる中、深夜徘徊は意外に多いと感じた。
- ・ 振り込め詐欺等特殊犯罪が全国的に横行している。青少年が巻き込まれないよう、行政・警察が一体となり、より一層の注意喚起をお願いしたい。
- ・ 大和署管内の刑法犯・知能犯侵入盗・非侵入盗等の全体像を把握したい。グラフ化してあると良い。
- ・ 高校生や大学生はアルバイトも減り、夜の居場所がなくなっているのではないか。

<委員から寄せられた質問と担当課回答>

- ・ 令和 2 年度における少年非行への重点的な取り組みがあったら教えて欲しい。

→大和警察署回答

- ・ 例年、管内の小中学校及び高校に対し、万引き防止をはじめとする様々な非行防止教室を行っているが、令和 2 年度はコロナ禍により大幅に活動を減少せざるを得なかった。

そのため、大和警察署生活安全第一課防犯少年係員及びスクールサポーターが、管内の小中学校及び高校を訪問した際に、少年非行についてのタイムリーな情報提供を行い情報の共有化を図っている。

また、機会があるごとにチラシを配布しながら、次の情報提供を行っている。

- ア) 特殊詐欺の被害防止対策として、特殊詐欺の現状及び少年を特殊詐欺に加担させないための指導等。
- イ) サイバー犯罪被害防止対策として、福祉犯の現状及びサイバー犯罪防止教室の促進等。
- ウ) 薬物乱用防止対策として、薬物乱用少年の現状及び薬物乱用防止教室の促進等。

(2) 令和 3 年度の主な青少年育成事業について（資料 2－1、資料 2－2）

■《こども・青少年課》（資料 2－1）

- ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業の実施に影響が出ている。
- ・ 「泉の森ふれあいキャンプ場」については当面の間休場とし、「こども体験事業」や、

- 「ふれあい広場」、「親子ナイトウォークラリー」のイベントについては中止とした。
- ・今年度の成人式については、令和4年1月10日に実施を予定している。

<主な意見>

- ・貴重なプログラムであり、来年に期待している。
- ・中止の事業が早く開催されることを望む。
- ・コロナ感染予防に留意されている。この案で良いと思う。
- ・成長期の大切な時に、色々な事業が展開されず残念である。
- ・コロナ禍でも中止ありきではなく、どうしたら実施できるのか、考えて行って欲しい。
(ほか、同様意見2件)
- ・様々な事業が実施されていることは評価できる。

<委員から寄せられた質問と担当課回答>

- ・令和2年度成人式の学校における記念撮影の報告をお願いしたい。

→こども・青少年課回答

- ・令和3年4月29日(木・祝)の10時から16時まで、「2021 やまと成人式」のサテライト会場として、市内市立9中学校に金屏風等で装飾した記念撮影スポットを設置した。来校者数は、男性425人、女性303人の合計728人となっている。当日は、新成人が中学3年時の担任などの恩師22人が来校し、新成人と一緒に記念撮影を行った。

■《青少年相談室》(資料2-2)

- ・青少年一人ひとりを尊重し、その可能性に焦点を当てて、青少年の健全育成支援に取り組んでいる。
- ・相談の柱は「こどもを主体とした相談」「学校問題を生活問題として捉える」「こどもの未来の可能性を切り開く」の3つで、環境との相互作用の中で、何が起きているのかを見極め、地域社会との関わりを通して課題の解決を図っている。
- ・市内の公立中学校全校と小学校10校に不登校児童生徒支援員を配置し、学習支援、家庭訪問、教育相談を行っている。

<主な意見>

- ・いじめや不登校等の様々な課題に対し、今後も早期の対応、学校と連携した丁寧な対応をお願いしたい。
- ・人間の持っている可能性に焦点を当てることは大切な視点だと思う。誰もが問題解決力を持っているという視点で対応することが大切だと考える。
- ・スクールカウンセラーの派遣日数が増えるとさらに良い。
- ・いじめ・不登校は、大きな課題。一人の教員では解決できない。専門知識を持つ人材の育成をお願いしたい。
- ・相談活動の中で、子どもに届く専用ダイヤルが目に入ると良い。
- ・児童生徒から指導者への不平不満の相談を受ける。教師は教科指導、部活等の忙しさから、児童生徒の心に寄り添うことが不足しているのではないかと。
- ・事業計画・相談事業をもっと周知したほうが良い。どこに相談すればよいかわからない人がたくさんいると聞いている。

- ・不登校の子どもたちと向き合い、一人でも多くの子どもに笑顔を取り戻して欲しい。

(3) 第49回青少年健全育成大会について(資料3)

- ・新型コロナウイルス感染症に関して終息の見込みが立たない状況であることから、開催手法を検討していく。
- ・こども体験事業(7月)の中止に伴い、当該事業の発表会については中止とする。

<主な意見>

- ・コロナが終息し、健全育成大会が実施されることを望む。
- ・新型コロナの終息状況を見ながらの判断でお願いしたい。
- ・感染対策をしっかり行い、実施して欲しい。
- ・青少年健全育成大会には、大切な役割があると思う。
- ・子どもたちの表彰だけでも開催して欲しい。オンラインや書面では、子どもの心は育たない。
- ・こども体験事業発表会の中止は残念である。

(4) 令和3年度神奈川県青少年育成活動推進者表彰候補者の推薦(資料4)

- ・例年、事務局より各関係団体へ推薦を依頼し、会長に確認の上、県へ報告している。
- ・今年度も同様に事務を進めることを報告する。

その他の意見

- ・青少年問題は、保護者の成育歴や現状の環境、指導者(教職員)の考え等が複雑に絡み合っている。協議会において、人の尊厳を守り合える人間性の育成のための具体策を、家庭・教育現場に打ち出せるとよい。